

スマートフォンに関する用語事典

『スマートフォン』を理解するにあたって、知って得する便利な用語辞典です。

一般的な用語

OS (Operating System オペレーティング・システム)

ハードディスクやメモリの管理、キーボード入力や画面出力などの入出力機能等、コンピュータシステム全体を管理する基本のソフトウェア。日本語訳として「基本ソフト」という言葉を使用することもある。世界で最も利用されているコンピュータのOSは、Microsoft社のWindowsで、他にApple社のMacOSなどがよく知られている。また、特に携帯機器に搭載されているOSのことを、モバイル・プラットフォームともいう。スマートフォンのOSには、Google社のAndroid OSやApple社のiOS、RIM社のBlackBerry OSなどがある。

SIM

携帯電話の電話番号を特定するための固有のID番号が記録されたICカード。このSIMカードにより、電話番号やアドレス帳を他の携帯電話端末に移したり、一つの携帯電話端末で複数の電話番号を切り替えて使用したりすることができる。

アプリ

正式名称は『アプリケーション・ソフトウェア』。ここでは、『スマートフォン』にインストールして使用するアプリケーションのこと。コンピュータにMicrosoft社のWordや、Media Playerといったソフトウェアをインストールする感覚で、『スマートフォン』にもアプリをダウンロードして、機能を拡張・カスタマイズすることができる。

LAN (Local Area Network ローカルエリア・ネットワーク)

コンピューター間、または、コンピューターとプリンターなどの端末を繋いで、データのやりとりをするためのネットワークのこと。サーバと呼ばれるコンピューターが、インターネットへの接続やプリンタの共有、ファイルの共有といったサービスを提供し、他のコンピューターはサーバに接続することで、それらを使用することができる。

Wi-Fi (Wireless Fidelity ワイファイ)

「Wi-Fi Alliance」という団体によって、無線LAN機器の相互接続性を認証されたことを示す名称。Wi-FiとWi-Fi CERTIFIEDのロゴはWi-Fi Allianceの登録商標だが、最近では『無線LAN = Wi-Fi』という誤用が広く普及し、地域によっては『無線LAN』というより『Wi-Fi』という方が通じやすくなってきている。

無線LAN

ワイヤレスLANまたはWLAN (Wireless LAN) とも言い、無線でデータの送受信を行うLANシステムのこと。カフェや空港など、無線LANでインターネットの電波を飛ばしている場所に、無線LAN対応のノートパソコンや『スマートフォン』を携帯すれば、インターネットを利用することができる。

日本の携帯電話用語

おサイフケータイ

携帯電話に埋め込まれたICチップを使ったサービス、また、このサービスに対応した携帯電話端末の総称。電子マネーとして自動販売機や店舗で買い物ができるほか、電車の切符や飛行機のチケット、また各種のポイントカードや会員証など、さまざまな用途に使われている(『おサイフケータイ』という言葉は、元々NTTドコモ社の登録商標だったが、普及を優先させるため他社でも使用されている)。

赤外線通信

赤外線通信機能が搭載された携帯電話やコンピューター同士で、電話番号やアドレス、写真などを赤外線によって送受信すること。回線を使用するわけではないので、通信料も掛からない。テレビのリモコンなどとして利用する時も、この赤外線通信機能を使う。

ワンセグ

日本で、携帯電話などの携帯機器を受信対象とする地上デジタルテレビ放送。正式名称は「携帯電話・移動体端末向けの1セグメント部分受信サービス」。